

## 2. 広渚沼の干拓 【「わたしたちの河南町」(平成11年3月31日発行)を抜粋】

### 1) つくられた広渚沼

昔、玉造川(今の江合川)は、前谷地の龍ノ口から北村小崎前、広渚を通り、矢本町の大曲で海に流れこんでいました。

およそ370年前、仙台藩主伊達政宗に命じられて、川村孫兵衛が玉造川の流れを今のように和渚で北上川と合わさるように変えてから、川の流れていたあたりは、葦などの生い茂る谷地になっていました。

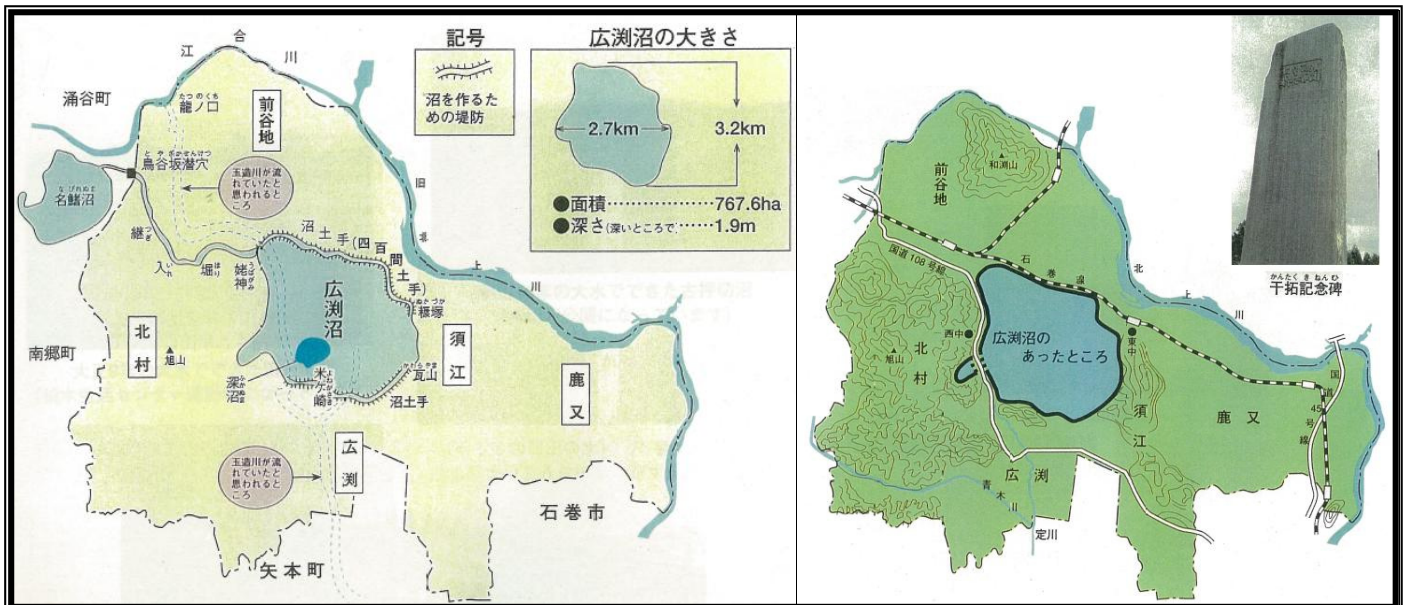
その後、藩では、河南・矢本地区の谷地を水田にすることにし、小島嘉右衛門らに調べさせたところ、田んぼに引く水がないことが分かりました。

そこで、農業用ため池をつくることにし、寛文2年(1662年)から4年がかりで工事をしました。

工事は、谷地の中にある深沼を囲むように堤防をつくり、そこに、遠田郡の名鱸沼の水を前谷地の鳥谷坂に掘った潜穴(トンネル)を通し、継入堀から流し込むようにしました。

こうしてつくられたのが、大堤と呼ばれた広渚沼なのです。

広渚沼の水のおかげで、河南、矢本地区を始め、石巻市の蛇田などに、新しく田んぼがたくさんできました。沼には、ヒシやハスなどの植物が生え、フナやウナギ、沼エビなどが取れました。



広渚沼の干拓



◀ 広渚沼  
大正9年3月撮影  
(北村・人魚森付近)  
[前谷地・黒澤直次郎氏提供]



◀ 現在の様子  
平成10年11月撮影  
(北村・人魚森付近)



鳥谷坂潜穴

## 2) 広渕沼干拓の歩み

明治時代になって、前谷地の斉藤太兵衛という人が、広い土地をため池にしておくよりは干拓して、稲を作ろうと思い県知事に願い出ました。

また、佳景山の及川甚三郎も申し出ましたが、どちらも干拓は許されませんでした。

その後、人口が増え、天候が悪く不作の年もあり、どうしても水田を増やし、米をたくさん作らなければならなくなりました。

その上、大水があると沼の堤防が壊れ、被害を出すことも多くなりました。

そこで大正7年（1918年）に、県では広渕沼を干拓して水田にし、新しい農村を作る計画をたてました。

大正9年（1920年）県議会で工事をすることを決め、国の許可をもらいました。

大正10年（1921年）から干拓工事が始まりました。まず、沼の水は赤井堀から定川に流し、水をひいた沼のあとは10工区に分けられ、水路を碁盤の目のようにつくり、田がつくられました。

また、田に使う水は、佳景山に機関場をつくり、旧北上川の水を引き入れることにしました。

工事は、昭和3年（1928年）に終わりました。広渕沼は、およそ800ヘクタールの農地に生まれ変わったのです。



川村孫兵衛の改修工事

## 3) 新しい土地に入った人たちの努力

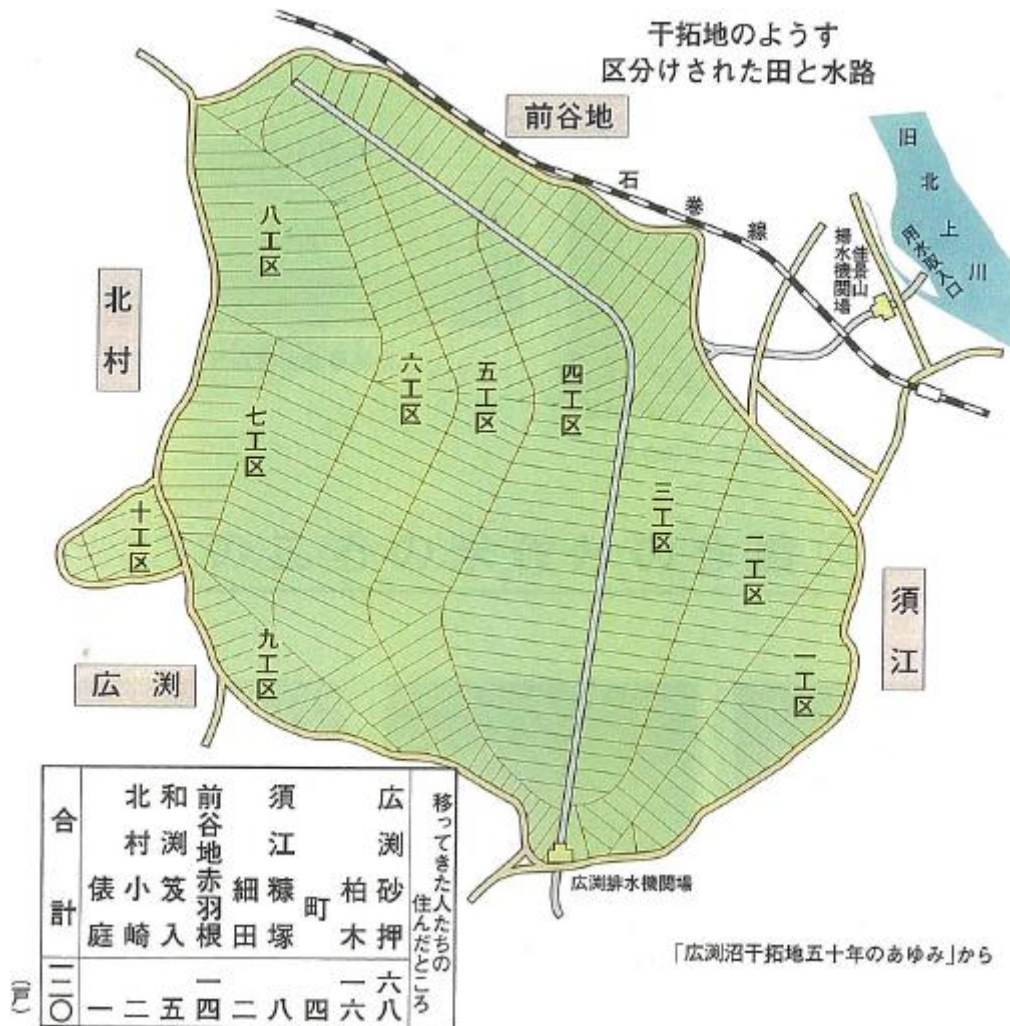
干拓工事が進むとともに、県では農地を耕す人々を募りました。南郷町、鳴瀬町、涌谷町など県内各地からたくさんの方が申しこみました。その中から、120戸の人たちが選ばれて、広渕の砂押、須江の糠塚、前谷地の赤羽根などに住み、農業をすることになりました。

県では、1戸あたり、約2ヘクタールの田を貸して、米づくりに励んでもらうことになりました。

人々は、新しい土地での農業に希望をもって取り組んだのですが、田は、沼のあとなので土はよく肥えていましたが、田植え時などは腰まで土の中に体がめり込み、貝の殻やヒシのからのトゲなどで、手足を切ったり、爪

が裂けたりしました。また、田の中に葦がはえてくるなど、苦勞の多い毎日が続きました。

人々は、力を合わせて仕事を進めていくために、「広拓社産業組合」をつくり、農業倉庫や共同作業場をたてたり、共同で苗を育てたりしました。



#### 4) 自作農への願い

干拓地で働く人々は、県から土地を借りて農業をしていますので、土地の借り賃の小作料を納めます。

小作料は、米の取れ高の、およそ半分ぐらいという高いものだったので、苦しい生活をしなければなりませんでした。

そこで、自分の田にするため、広拓社の八木秀雄組合長を中心に、県に農地を売ってくれるように、何度もお願いしました。

その結果、昭和15年（1940年）に県が農地を売ってくれました。自作農への願いがかなったのです。

次に、人々は、水はけのよい田にしようと、暗渠排水という工事をすることにしました。工事は広拓社が中心となり、寒い冬の間に行い3年かかりましたが、腰までぬかる田はなくなりました。

#### 5) 広測沼干拓とその後

多くの人々の、血のにじむような努力によって、ため池としてつくられた広測沼は、りっぱな田んぼとして生まれ変わり、農家の人々の工夫と努力で、米の取れ高もぐんと増えてきました。

広測沼干拓地は、河南町の大きな米倉と言えるでしょう。

昭和52年（1977年）には、広測沼干拓50周年記念のお祝いが盛大に行われました。